

# としま包摂ネットワーク主催 地域サポーター養成セミナー

#05

テーマ

## 「障壁」を見つける

- 障害者・外国人の支援の実践から -

参加  
無料

### ゲストスピーカー



#### 朴 梨沙 さん

TOSHIMA Multicultural Support (としまる)  
統括コーディネーター・社会福祉士



#### 安尾 真美 さん

特定非営利活動法人さらプロジェクト  
副理事長

### 場所

## としま区民センター601・602会議室

東京都豊島区東池袋1-20-10

### タイムスケジュール

- 14:00-14:30 豊島区における多文化共生の取り組み  
～としまるの事例から～
- 14:30-15:00 障害者の就労をとりまく現状と課題  
～さらぼれ18年の活動から～
- 15:00-15:20 パネルディスカッション
- 15:20-16:00 グループワーク

6月4日(水)  
14:00-16:00

### お問い合わせ

としま包摂ネットワーク事務局  
toshima.housetsu.net@gmail.com

### お申し込み

ご予約は、右のQRコードから  
予約用フォームに必要事項を  
ご登録お願いいたします。



主催：としま包摂ネットワーク

## セミナー概要

障害の「社会モデル」という考え方があります。これは、例えば、階段しかない建物があつたとします。車椅子を利用している方がこの建物の2階に登ることができないのは、「車椅子だから登れない」のではなく、「車椅子を利用している人が乗ることができるエレベーターがない」からだ、という考え方です。つまり、「障害」は、車椅子利用者にあるのではなく、その人の周囲の社会や環境にあると考える考え方です。

2024年4月1日、「障害者差別解消法」が改正施行され、民間事業者による合理的配慮の提供が義務化されました。今後、ますます「社会モデル」の考え方は重要な視点になっていくはずです。

また、2025年4月1日現在、豊島区の人口の約12%が外国人です。ある報道によれば、25年後の日本の人口の1割は外国人になる、との予想が出されているそうです。多文化共生は「目標」ではなく、「現実」です。

障害の「社会モデル」の考え方を前提に、豊島区で暮らす外国人が直面する困難の原因を改めて考えたとき、果たしてその困難は、外国人の言語や文化の違いから生じているものなのでしょうか。

今回は、豊島区に暮らす外国人の支援をされている「TOSHIMA Multicultural Support（通称：としまる）」の朴梨沙さんと、障害のある方の就労支援をされている「特定非営利活動法人さらプロジェクト」の安尾真美さんのお二人をゲストスピーカーにお招きし、そのお話から、区内にある「障壁」を参加者全員で見つけ、それを無くすために私たちに何ができるのかを考えます。

## 「としま包摂ネットワーク」とは？

としま包摂ネットワークは、豊島区で、①支援者間のネットワークを作ること、②地域のサポーターを増やすことを活動の柱として活動する団体です。豊島区内で活動する様々な支援者の方向けのメーリングリストの運用・管理や、豊島区内で地域のために活動したい、という地域の方向けに、年に4回「地域サポーター養成セミナー」を開催しています。

## 「地域サポーター養成セミナー」とは？

孤立した人にとって、地域に自分の「味方」や「出番」を見つけることができれば、それほど支えになることはありません。私たちは、支援団体だけでなく、地域のなかに「味方」や「出番」を作ってくれる「地域サポーター」を増やしていきたいと考えています。

「地域サポーター養成セミナー」は、参加者の方が、今、豊島にある地域の課題とリソースを知り、地域のなかに「味方」や「出番」を作るために何ができるのかを参加者全員で考える場所にしたいと考えています。